主の祈り　(93-5A)

天にまします　われらの父よ
ねがわくは、み名をあがめさせたまえ
み国をきたらせたまえ
みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ
われらの日用の糧（かて）を、今日もあたえたまえ
われらに罪をおかすものを、われらがゆるすごとく
われらの罪をもゆるしたまえ
われらをこころみにあわせず、悪よりすくいいだしたまえ
国と　ちからと　さかえとは、かぎりなく、
なんじのものなればなり　　アーメン

石巻栄光教会宣教基本方針

石巻栄光教会は，主なる神と出会うイエス・キリストの体です。神様が愛している一人一人のかけがえのなさを思い出し，この世界を神様が大切にしていることを思い出す場所です。石巻栄光教会は，希望を生み出します。

私たちは、この社会の現実の中で生きています。教会の中だけでの満足にとどまらず、社会に生きる人々の痛みや苦しみ、あるいは楽しみを共にしていくこと、そして、悩みや不安を分け合って喜びに変えていく教会になることを願います。

また、一人一人の生き方を尊重するとともに、神様から一人一人に与えられている賜物を活かして、神さまと人を愛し、感謝しながら地域に仕えていく教会を目指します。

日本キリスト教団 石巻栄光教会

〒986-0854　石巻市大街道北２丁目１２－３
電話／FAX：0225-22-4090
ホームページ：http://tohoku.uccj.jp/i-eikou
メール：i-eikou@tohoku.uccj.jp
振替口座：02280-8-2810
教会創立：1887年9月25日

集会案内

聖日礼拝	毎週日曜日	午前10：30
早朝礼拝	毎週日曜日	午前 7：30
交わりの会	毎週日曜日	礼拝後
み言葉と祈りの会	毎週水曜日	午後 7：30

2024年度標語　『これは、人の意志や努力ではなく、
神の憐れみによるものです』

◎ 聖日礼拝を共に守りましょう。
◎ 日ごと聖書に聞き、祈りましょう。
◎ 家族・地域に福音を届けましょう。
◎ 平和を創り出すために働きましょう。

№2491

主日礼拝式順序

2025年9月7日

受付
司会
献金
奏楽

礼拝当番は
礼拝堂に集まった人の中で
可能な方に担当いただきます。

前　　奏		
招きの言葉	［7］マタイによる福音書第11章28節	司会者
讃　美　歌	34	一　同
子どもたちへの話		
祈　　り		司会者
聖　　書	イザヤ書42章3節 （旧約聖書1128ページ）	
讃　美　歌	421	一　同
お　　話	「傷つく葦も　くすぶる灯心も」	川上直哉 牧師
讃　美　歌	421	一　同
献　　金		一　同
報　　告		司会者
讃　美　歌	90（1節）	一　同
祝福の祈り		
後　　奏		

＊当教会では 着席のまま礼拝を守っています。
＊旧約聖書は前半（P.1502まで）、新約聖書はその後ろです。
＊献金の額はいくらでも結構です。持ち合わせがないときは次の機会に。

∞○∞○∞○∞○∞ お知らせ ∞○∞○∞○∞○∞

9月25日は、日本基督教団石巻栄光教会の創立記念日です。
「日本クリスチャン教会」として開始した歩みは、
138年、神様の守りと支えを受けました。そのことを感謝する9月です。

∞∞∞∞∞ 今週の集会 ∞∞∞∞∞

☆ 「初心に帰って聖書を読む会」　9月9日（火）10:30～　オンライン併用
☆ 「御言葉と祈りの時」　9月10日（水）19:30～　オンライン配信にて

∞∞∞ 次週の予告（9/14）∞∞∞

☆ 主日礼拝（お話：川上直哉 牧師）

［聖　書］　マタイ伝25章40節
［お　話］　「この最もちいさな者のひとりに」
34　567　90　［招きの言葉］9

受　付	礼拝当番は礼拝堂に集まった人の中で 可能な方に担当いただきます。
奏　楽	

∞○∞○∞○∞○∞ お知らせ ∞○∞○∞○∞○∞

✤今後の予定は以下の通りです

- **9月10日（水）東京で佐山さんたちと聖餐式**
- **9月14日（日）礼拝堂で聖餐式・役員会**
- **9月21日（日）日本基督教団石巻栄光教会設立記念礼拝**
- **9月28日（日）日本基督教団石巻山城町教会 牧師就任式**
- **10月5日（日）日本基督教団柴宿教会 礼拝担当**
- **10月12日（日）日本基督教団涌谷教会 礼拝担当**

《 先週の集会統計 》

聖日礼拝	11人	み言葉と祈りの会	6人
早朝礼拝	3人	聖餐式	4人

月定献金	特別献金
齋藤みや子・川上恵・大林健太郎 （以上、8月）	齋藤みや子（聖餐式・会堂修理） 石井龍子（誕生日）
席上献金　¥11,000	

週報別冊

2025年９月７日号

１．教会宛に、以下の通信が届いています。

【日本基督教団・東北教区関係】

- **「神学校日献金のお願い」（日本基督教団教師委員会）**：「教団立東京神学大学及び認可神学校（関西学院大学神学部、同志社大学神学部、東京聖書学校、日本聖書神学校、農村伝道神学校）・・・に対する教団の姿勢を示すものとして重要な意味を持っていることをご理解いただきたい」という趣旨で、「目標額300万円」の募金要請を頂きました。

- **「創立記念日献金」（日本基督教団伝道委員会）**：2024年度は４００を超える教会・伝道所より「5,479,624円」の献金があったことの報告を頂きました。

- **「ウクライナ救援募金報告」（日本基督教団社会員会）**：2025年７月現在「７千５百万円」以上の献金があったこと・その内の「60,678,083円」をＡＣＴアライアンスに、「６０万円」を日本ＹＭＣＡ同盟に送金したこと・募金期間を2025年12月まで延長したことの報告を頂きました。

- **「教団社会委員会通信」（日本基督教団社会委員会）**：神戸と能登の被災地支援センター等の働きの報告が掲載されています。

- **「2024年能登半島地震教会等再建支援募金」（日本基督教団2024年能登半島地震教会等再建支援委員会）**：「目標額７千万円」の募金要請です。

- **「共に仕えるために」（日本基督教団世界宣教委員会）**：アジア・アメリカ・欧州に派遣されている日本基督教団宣教師からの報告集をお送り頂いました。

- **「『外国人住民基本法』と『人種差別撤廃法』『難民保護法』の制定を求める国会請願書　2025年」（日本基督教団在日韓国朝鮮人連帯特設委員会）**：「すべての人が住みやすい社会を築くために、思いを込めて署名を」との呼びかけを頂きました。

- **「在日大韓基督教会・日本基督教団『協約』締結40周年記念集会報告書」（在日大韓基督教会・日本基督教団）**：1984年２月８日に「それぞれの教会の歴史とその独自性にたって、より深い教会的交わりと宣教協力関係を樹立する」ために協約を交わした二つの教団の記念集会の報告書を頂きました。

【その他教会・団体関係】

- **「ニュース・レター」（アハリー・アラブ病院を支援する会）**：「【最新ニュース】保護システム崩壊下のガザにおける剤耐性バクテリア（抄訳）」等が掲載されています。

２．牧師動静

９月１日（月）
午前中、仙台白百合女子大学カトリック研究所で会議を行い、お昼に仙台市役所などへ行き、午後、宮城県宗教法人連絡協議会「機関誌編集委員会」を主宰し、夕方、仙台YMCAの会議にオンラインで出席し、夜、オンラインでワイズメンズクラブ国際協会第29回東日本区大会ホスト委員会を主催しました。

９月２日（火）
午前中、宮城刑務所で教誨活動をし、午後、休暇を頂きました。

９月３日（水）
午前中、おひとりの訪問を受けて教会で聖餐式を行い、午後、十三浜で「キリシタン読書会」を主宰し、夜、祈祷会を主宰しました。

９月４日（木）
午前中、一件の報告をして読書会と聖餐式をし、午後、オンラインで食品放射能計測プロジェクト共同運営委員会を主宰しました。

９月５日（金）
午前中、休暇をいただき、午後、全キリスト教教誨師連絡協議会「高松研修大会」実行委員会をオンラインで主宰し、夜、ワイズメンズクラブの役員会に出席しました。

９月６日（土）

日中、OM 宣教団の「登米コミュニティチャーチ」献堂式に出席しました。

- 今週、東京と京都に、川上牧師は出張します。これに伴い、水曜日の祈祷会は録画配信となり、木曜日の聖餐式はお休みとなります。

9月8日（月）

午前中、仙台市役所などへ行き、午後、宮城県宗教法人連絡協議会法人研修に出席し、夜、『聖なる父』の読書会をオンラインで主宰します。

9月9日（火）

午前中「初心に帰って聖書を読む会」を主宰し、夕方、仙台で「反貧困みやぎネットワーク」の会議に出席します。

9月10日（水）

朝から東京に行き、佐山さんとお仲間と共に聖餐式を持ち、午後、全国教誨師連合宗教派懇談会に出席します。

9月11日（木）

日中、大阪府のキリシタン資料館に行き、夜、在日大韓基督教会大阪教会を訪問します。

9月12日（金）

京都の大谷大学で行われるキリスト教史学会に出席します。

9月13日（土）

午前中、カトリック元寺小路教会で人権のつどいに出席し、午後、石巻にて布施辰治顕彰「碑前祭」に出席します。

※牧師と面会をご希望される方は、どうぞ、ご遠慮なく教会のメール宛、ご連絡ください。上記日程を調整して、お会いしたく存じます。

【最新ニュース】保健システム崩壊下のガザにおける多剤耐性バクテリア（抄訳）

Huda Abu Dalala, Bilal Irfanc, Abdelraouf Elmanama（フダー・アブー・ダラ-ル、ビラ-ル・イルファーン、アブドゥラウ-フ・エル＝マナ-マ）

The Lancet Infectious Disease オンライン欄 2025年8月12日

2023年10月に始まったイスラエルの軍事侵攻以来、ガザの保健医療システムは広範な崩壊の危機に直面しており、疾病の爆発的感染拡大につながるおそれがある。市内のアハリー・アラブ病院にある小規模なラボは、ガザでこの間機能している数少ない微生物学研究施設のひとつだが、電力はおおむねディーゼル発電機とバッテリー変換機で確保している状態である。アハリー病院はガザで部分的にでも稼働しているわずかな病院のうちのひとつで、ガザ北部二地域の頻繁な空爆（2023年10月初旬に始まり、本論文執筆中も続いている）のさなかで外傷患者を多数治療しているが、空爆の間は暫時退避を余儀なくされている。2023年11月1日から2024年8月31日にかけて病棟内および緊急処置室内で採取・処置した膿、排泄物等による全標本1317点の調査を行った。そのうち約3分の2の標本から多剤耐性が確認された。

世界の医療コミュニティはこの危機に対して行動し、応答する義務がある。第一に、世界各地の医療従事者および政府は、イスラエルの軍事侵攻の停止に向けて声をあげなければならない。侵攻は負傷者の激増と、病院、ラボ、水の浄化施設の広範かつ意図的な破壊をもたらしている。停戦ならくして、感染の状況は悪化の一途をたどる。次に、今も稼働しているラボの状況を安定させなければならない。輸送団が継続して搬入する培養媒体、ディスク、発電燃料などが、この地域全体の培養検査による処方の役に立つだろう。欠くことのできない医療用品の搬入制限は撤廃しなければならない。最後に、人道団体や寄付者は薬品の供給をWHOなどを通じて手配し、今回記録された病院のニーズにかなう抗菌対応ができるようにならなくてはならない。

今回の分析には技術上の制約等による限界はあるが、パレスチナの医療施設、抗生物質の供給ルート、検査ラボなどの安全をただちに確保しなければ、今回確認された耐性菌はガザを越えて広がるだろう。

※本紙翻訳担当：桜井まり子＆真下弥生＆D. McIntosh（支援する会スタッフ）